

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中央 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

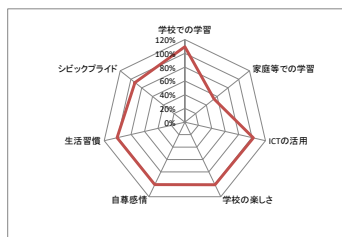
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な傾向は、全国の傾向に準じている。設問の意図を読みとり、適切なものを選択する問題は全国水準を上回っている。その一方、自分の考えを書いたり表現の効果を説明するといった、記述問題の無解答率が高いことが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題番号3二 文の成分の順序や照応についての理解を見る問題	
	努力が必要な問題	問題番号3四 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	全体的な傾向は、全国の傾向に準じている。どの分野も全国平均をやや下回っている。短答式・記述式の問題では複数の分野で全国水準を上回る問題がある一方で、無解答率が高いことが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題番号7二 判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題	
	努力が必要な問題	問題番号4 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかを見る問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「学校での学習」はすべての質問項目で、全国平均を上回っている。特に、自分の考えをまとめ、話し合う活動はよく行われている。また、授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けたり生かしたりすることは、とてもよくできている。
・「家庭での学習」に大きな課題がある。家庭学習の習慣が身についていない生徒が多く、昨年度から取り組んでいる「自学ノート」のさらなる推進や、AIドリルを用いた学習習慣の促進を図っていきたい。
・そのほかに関しては、全国水準と同程度であった。今年度から取り組んでいる「未来科」の学習を軸に、シビックプライドの育成に努めたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

令和6年度後期から、朝の時間の取組を読書・自学ノート・AIドリルの3つに変更している。この取組を通して、「自ら学ぶ」習慣を身に付けさせる。また、ICTを活用しながら、学び合いを軸にした授業改善を進める。

- 家庭生活習慣等に関する取組

就寝・起床時間は定着している生徒が多く、おおむね生活リズムは整っている。朝食をとらない生徒が全国と比べて多いので、食育に力を入れていく。また、地域と連携した行事（今年度は「大人としやべり場」など）を設定し、地域を愛する生徒を育てていく。